



《せみが鳴く》1952年

丸木スマ展

70歳で開花した絵心

わしや、  
今が花よ

2021年4月24日(土)－9月28日(火)

ベルナル・ビュフェ美術館

休館日=水曜日(祝休日の場合は翌日休み) 開館時間=10:00-18:00(4-8月)/10:00-17:00(9月)/入館は閉館の30分前まで

入館料=大人1000円(900円)/高・大学生500円(400円)/中学生以下無料/( )内は20名様以上の団体割引料金

主催=ベルナル・ビュフェ美術館 協力=原爆の図丸木美術館 制作協力=NHKエンタープライズ中部

後援=静岡県教育委員会、長泉町教育委員会、清水町教育委員会、裾野市教育委員会、沼津市教育委員会、三島市・三島市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送

NEWS RELEASE

展覧会のご案内

## HIGHLIGHTS

よわい

**齢七十にしてはじめて絵筆をとったスマの、自由で独創的な表現の魅力**

花を描くスマ

丸木スマは明治8（1875）年広島県安佐郡生まれ。70歳を過ぎて初めて絵筆をとると、その天真爛漫な絵により、「おばあちゃん画家」として注目を集めます。息子夫妻は「原爆の図」で知られる画家、丸木位里・俊ですが、スマ自身はそれまで、絵はおろか線の一本を描いたこともありませんでした。絵を描くことに魅せられたスマは、「絵を描きはなえてから（はじめてから）、面白うての。こりゃ、まだまだ死なりゃせん思うて。わしゃ、今が花よ」と言いました。そんなスマの姿からは、いつでも新たに芽吹くことができる人間の可能性と、生きることのすばらしさが伝わってきます。スマが愛し、謳歌したその絵の世界をお楽しみください。

## 1. 入選作品を中心にスマの画業をたどる



《簪 (かんざし)》1955年 原爆の図丸木美術館蔵

スマの描いた絵があまりに「おもしろい」ので、家族がその絵を女流画家協会展に出品すると、入選を果たします（1951年）。これを皮切りに、日本美術院展への入選など、次々と快挙を重ねます。生きるよろこびにあふれた自由なスマの作品は、閉塞感の漂う当時の日本画壇に新風を吹き込むものとして注目されました。スマは美術教育とは無縁でしたが、80年の人生の中で、自分の眼で見て

感じたことを描き、独自の世界観を表現しています。本展では、スマが画家として生きた9年間の作品を年代順に紹介。家族たちを楽しませた初期のスケッチから、独特の感覚で世界を表現し構成した作品へと、その変遷をたどります。



《ひまわり》制作年不詳 原爆の図丸木美術館蔵



《一粒百万倍》1950年 原爆の図丸木美術館蔵

## 2. 家族を笑顔にした初期の作品を多数展示



《にわとりいっぱい》制作年不詳 個人蔵



《猫の家》制作年不詳 個人蔵

スマの初期作品が一堂に会するのも本展の特徴です。スマは自分の描いた絵を「おかし  
かろうがの」と笑いながら見せては、家族を楽しませていました。最初期の作品では、線  
を引くことになれていないスマが、点をつなぐようにして描いているようすもみてと  
れます。また、1954年発行の『丸木スマ画集』に掲載されていながら、長らく所在不明  
だった作品《鶉(う)》大原美術館 (Ohara Museum of Art, Kurashiki) 所蔵 も展示します。

## 3. 「わしゃ今が花よ」スマのことばとともに



絵を描くスマ

農家に生まれ、嫁いでからは家業の船宿や  
農作業で休みなく働き、三男一女を育てた  
スマ。原爆が原因で夫を亡くしたあと、隠居  
して暇をもてあましていたところ、家族の  
すすめで絵を描き始めました。本展では、絵  
を描くことが生きるよろこびとなっていつ  
たスマのことばの数々も紹介します。作品  
はもちろんのこと、スマのことばからも、  
その生き様を感じ取ることができます。

—絵を描きはなえてから、面白うての。  
こりゃ、まだまだ死なりやせん思うて。  
わしゃ、今が花よ。 —スマ

IMAGES

【広報用画像資料】

広報用にお使いいただける画像をご用意しています。  
お申込み、お問い合わせは次ページをご覧ください。  
クレジット表記は各画像下の内容をご利用ください。



1 《せみが鳴く》1952年 原爆の図丸木美術館蔵



2 《ひまわり》制作年不詳 原爆の図丸木美術館蔵



3 《めし》1950 原爆の図丸木美術館蔵



4 《塔》1951年 原爆の図丸木美術館蔵



5 《簞》1955年 原爆の図丸木美術館蔵



6 《田楽》1956年 個人蔵



7 丸木スマ  
原爆の図丸木美術館蔵

## INQUIRY

## 【広報用画像資料申し込み用紙】

前ページ掲載の作品について画像資料（デジタルデータのみ）をご用意しています。

ご希望の場合は□にチェック  を入れ、必要事項をご記入の上、FAXにて055-987-5511まで、  
あるいは必要事項と画像の番号をE-mailにてinfo@buffetmuseum.or.jpまでお申し込みください。

お願い ・クレジット表記は前ページ画像下の情報（タイトル、制作年、所蔵元）をご利用ください

・掲載誌一部を送付、あるいは掲載サイトのURLをお知らせください

・取材にご来館いただける場合、事前に担当者までご一報ください

---

貴媒体名

---

掲載号 発売・公開日等 年 月 日

---

貴社名 ご担当者名

---

Tel Fax

---

E-mail

---

ご住所

---

1 《せみが鳴く》1952年

2 《ひまわり》制作年不詳

3 《めし》1950年

4 《塔》1951年

5 《簪》1955年

6 《田楽》1956年

7 丸木スマ（写真）

FAX : 055-987-5511 / E-mail : info@buffetmuseum.or.jp

## 【お問い合わせ】

広報：井島（いしま）・雨宮（あまみや）

ベルナール・ビュフェ美術館

静岡県駿東郡長泉町東野クレマチスの丘 515-57

TEL 055-986-1300

info@buffetmuseum.or.jp

## GENERAL INFORMATION



### ベルナル・ビュフェ美術館

<https://www.clematis-no-oka.co.jp/buffet-museum/>

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 515-57 TEL 055-986-1300 FAX 055-987-5511

- 入館料 一般：1,000円（900円）高・大学生：500円（400円）中学生以下：無料（ ）内は20名様以上の団体割引
- 休館日 水曜日（ただし5月5日（水）は開館し、5月6日（木）を休館します）
- 開館時間 10：00-18：00（4～8月）／10：00-17：00（9・10月）入館は閉館の30分前まで

#### ●アクセス

##### ◎自動車の場合

【東京方面】東名・裾野I.C.→R246 経由、沼津方面へ10 km

【名古屋方面】新東名・長泉沼津I.C.

または東名・沼津I.C.→伊豆縦貫道（無料区間）→長泉I.C.出口右折、R246 経由 7 km

◎電車の場合 JR 東海道線 [三島駅] 下車 北口 (3 番乗り場) 発 無料シャトルバスあり (所要時間 25 分)

